

Primaff News

VOL.5 平成19年12月10日発行



北東アジア農政研究フォーラムの概要

小泉武夫客員研究員の講演会を開催しました。



北東アジア農政研究フォーラムの概要

－ 第5回日中韓シンポジウムが中国で開催されました －

当研究所では、平成15年3月に中国農業科学院農業経済研究所及び韓国農村経済研究院との間で、北東アジア地域における農業構造、農業環境、農産物貿易等の諸問題についての研究協力を行うため、北東アジア農政研究フォーラムを立ち上げ、毎年各国で持ち回り開催することとなりました。

第5回となるシンポジウムが、10月15日から中国北京で行われ、当研究所からは、小西所長をはじめとする7名が参加し、3つの議題について研究発表及び討議を行いました。

①農村金融と保険

第1の議題である「農村金融と保険」について、各国から研究発表が行われ、日本から長谷川研究員により発表が行われました。

このような研究発表により、日韓ともに農業特質に配慮した政策主導の金融制度が存在し、農業の発展に寄与してきたことが認識されました。

活発に意見が出された討議の中では、河原上席主任研究官から、農業金融を持続的に発展させるためには貸付資金の確実な回収が必要であり、そのために農業者の信用状況の十分な把握が不可欠であるとの指摘がなされました。



－ シンポジウムでのディスカッションの様子 －

②北東アジアにおける高齢化と農村開発

日本の発表では、松久上席主任研究官から、日本の人口構成の特徴、高齢化の実態を都市と農村の人口の移動を踏まえつつ説明し、日本では急激な高齢化が進展し、農村地域でのより進展している実態を多くの数値データを用いて解説しました。

討論の中では、山下主任研究官より、中国でも高齢化が進展しつつあり、高齢化率では日本より低いものの絶対数では膨大なものになっており、中国経済が先進経済に至らない以前に膨大な高齢人口を抱えるようになったことが問題であり、今後の年金・医療制度の対処方法が問われている。特に農村部では都市部より高齢化が進んでおり、農村振興なくして農村の社会福祉の充実は困難との指摘がなされました。

③ バイオエネルギーと北東アジア農業に対する影響

この議題の議事進行は、当研究所の小西所長が行いました。小泉主任研究官より、わが国のバイオエタノール政策推進の背景と現状、今後の展開方向について説明し、日本がブラジルからのバイオエタノール輸入を拡大した場合の国際砂糖需給に与える影響に関して、部分均衡需給予測モデルを活用した分析結果により、国際砂糖価格の上昇が生じるとの報告を行いました。

討議の中では、日本バイオマス利用に関する長期戦略を策定している点を取り上げ、中国・韓国は日本を見習うべきとの意見や、北東アジアがバイオ燃料の国際な展開から受ける影響と逆に国際市場に与える影響の双方を考えていく必要があるとの意見が出されました。

④ 最後に

こうした研究発表および討議を通じて、北東アジア3カ国が程度の差はあっても、現在または将来的に農村地域の高齢化という問題を抱えることになるということが明らかになりました。

また、農業金融や農業保険、年金制度が整備されている日本や韓国と、制度が未整備の中国との違いが改めて認識されました。

さらにバイオエネルギーの国内生産については、三カ国ともに食料資源と競合しないバイオマスの有効利用の技術の発展が重要であるとの認識で意見が一致しました。

最後に三カ国の所長による会合で、次回のシンポジウムは2008年6月の第1から2週に日本で開催することとなりました。

この第5回日中韓シンポジウムの詳細については、19年12月発行予定の「農林水産政策研究所レビューNo. 26」に掲載する予定となっております。



— 北京市の卸売市場でのヒアリングの様子 —

小泉武夫客員研究員の講演会を開催しました。 — 「農水産廃棄物の再利用と環境の浄化」について —

農林水産政策研究所では、10月10日(水)に農林水産省7階講堂において、小泉武夫氏(農林水産政策研究所客員研究員 東京農業大学応用生物科学部教授)の講演会を「農水産廃棄物の再利用と環境の浄化」をテーマに行いました。

農水産業における大きな問題の一つに廃棄物あるいは副産物の処理があります。多くの現場では、これを焼却したり埋めたりといった廃棄処分を行っていますが、これは、地球環境の破壊に繋がると言われ、とにかく厄介者扱いされています。

しかし、これを逆転の発想で「生ゴミは宝だ」「廃棄物は資源だ」と考え、再利用しているところもあり、むしろ大きな利益を出している例も少なくありません。



— 講師の小泉武夫教授 —



— 講演会場の様子 —

講演では、小泉教授がこれまで手がけてきた農水産廃棄物の再利用と環境の浄化の成功例を幾つか取り上げるとともに、廃棄物の有効利用の今後の展望について、お話しいただきました。

概要の詳細は、ホームページに掲載しておりますので、ご覧ください。

【 <http://www.primaff.affrc.go.jp/meeting/yoshi/pdf/2007/20071010.pdf> 】

編集後記

表紙の写真は、当研究所の職員が休暇を利用した旅行で写されたものです。

これはフランスのパリにあるオルセー美術館の時計で、かつて鉄道駅舎だった時代を残しています。この時計から見えるのは、セーヌ川をはさんだ向かい側に立っているルーブル美術館です。

なんともロマンチックな写真で、行った事のないフランスへの憧れが大きくなりました。

Primaff News



— 農林水産政策研究だより —

VOL. 5 平成19年12月10日発行

農林水産省農林水産政策研究所

企画広報室広報資料課

TEL : 03-3910-3809

※バックナンバーはHPをご覧ください。

<http://www.primaff.affrc.go.jp/seika/primaffnews/news.html>